

琉球大学学術リポジトリ

燐鉍見本添付説明書

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2018-04-16 キーワード (Ja): 矢内原忠雄, 南洋, 鉍業 キーワード (En): Yanaihara Tadao 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/38184

矢内原忠雄文庫

史料名	燐鉍見本添付説明書
封筒番号	71
原文所所蔵者	琉球大学附属図書館
撮影年月日	平成17年11月9日
撮影者	富士写真フイルム株式会社
備考	

矢内原忠雄文庫

封筒番号：71

史料名	燐鉦見本添付説明書
資料形態	ガリ/ホチキス止め
枚数	3
页数	6
縦 (cm)	
横 (cm)	
厚さ (cm)	
書誌的事項	南洋 書き込み多数あり 今泉分類記号：N

燐鑛見本添附説明書

(一) 南洋廳經營ノ南洋バラスト諸島アンカウル島採鑛所採掘燐鑛ノ代表的見本種別左ノ通り

符號	燐鑛ノ俗稱	評定成分	析表 (無水物百分率)
一	褐色鱗狀燐	全燐酸 (P ₂ O ₅)	燐酸三石及摻量 (CaP ₂ O ₇)
二	白色粘土狀燐	三九・八〇	酸化鉄酸化アルミナ (Fe ₂ O ₃ Al ₂ O ₃)
三	移出精燐	八六・九二	一・八〇

説明

一 褐色鱗狀燐ハ白色粘土狀燐ニテ本島産燐鑛ノ代表的見本ナレドモ本種ハ鑛區ノ外縁又ハ表層ヲ占ムルモノナレバ白色粘土狀燐ニ比シ遙ニ其ノ産量多クナシ成分ハ表記ノ通り
 二 白色粘土狀燐ハ品位良好且深層ヲ構成シ産出多量ナレバ本島産燐鑛ノ最モ代表的見本トスベシ成分表記ノ通り
 三 移出精燐ハ六分ニ於テ前記ニ鑛種ヲ褐色四分乃至三分白色六分乃至七分割合ニテ配合シタルモノヲ乾燥機(直徑三呎長二呎)ニ運轉装置(ニ依リ直接石炭火中)ニ通過セシメタル乾燥機即チ移出精燐ナリ標準成分表記ノ通り
 本種ハ日本内地ニ輸送セラレ製氷工場ニ於テ粉砕機ニ依リ微粉セララレモノニ約同量ノ硫酸ヲ混加シテ過燐酸石灰肥料トナルモノナリ
 (二) アンカウル島採鑛經營沿革

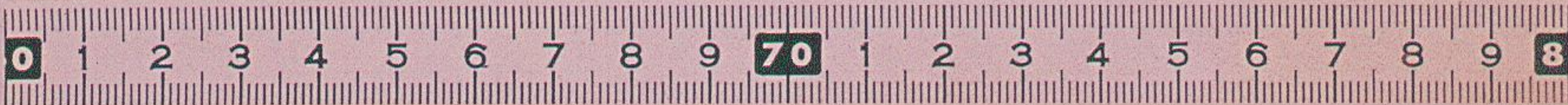
位置廣袤燐鑛埋藏量

北緯六度五四分十九秒東經百零四度五分五十分アンカウル島ハ廣袤面積ニ三三・〇平方哩(二五・八五五五坪)ニシテ長徑ニ於テ三三・五哩短徑ニ於テ二五・八哩南洋廳所在地コロール島ヨリ南西四・哩ニアル孤島ナリ而シテ横濱港ヨリ一七・〇哩神戸港ヨリ一六・八哩門司港ヨリ一六・八哩ナリ
 燐鑛埋藏量ハ二百萬噸乃至三百五十萬噸トシ品位及埋藏量ヨリシテ太平洋上四大燐鑛産地トシテ佛量マカテア英領オーストラリア及ナウルト併稱セラレモノナリ
 本島燐鑛ハ一九〇六年ニ於テ偶然發見セラレ尙一九〇七年独逸探險隊ニ依リ其品質及埋藏量ヲ確認セラレタリ
 探險隊ノ組織

在アンカウル島北独逸ロイド汽船會社各地独逸トシヨナルバンク在フランクフルトアマイ

ン市株式會社セルス燐鑛株式會社在ロツテルダム市ニシテ高會社共同出資ニ依リ谷社ニテ技術顧問長一等運轉手等ヲ派遣シ北独逸ロイド會社東亞沿岸航路ニ屬スルノナツテ號總噸數七五・噸一時同九哩汽船ヲ特ニチマターシテ組織シタリ
 右探險隊ノ調査報告ヲ基礎トシテ一九〇八年独逸アンカウル島ニ於テ國民銀行主權トナリ茲ニ資本金四百五十萬馬克(株數四千五百一株チ馬克)ノ独逸南洋燐鑛株式會社ヲ創立シタルモノナリ
 而シテ會社創立ノ翌年一九〇九年二月(明治四十三年二月)ヨリ採鑛經營ヲ着手シ全會社ハ本島ノ東南部百五十五ヘクタール及墓地附近ノ地域四ヘクタールヲ除キ他全部ヲ千二百馬克ニテ独逸政府ヨリ拂下受ケ採鑛經營終了後之ヲ全政府ヘ返還スルノ條件ヲ有セリトシテ

全會社ハ頭初三年間主力ヲ其ノ設備ニ傾注シ缺損ヲ重ネ漸ク一九二二年ニ至リ三・五二四馬克一九二三年ニ至リ三・五二八馬克(株主配當年六分)一九二三年ニ至リ三・六八〇馬克(年一割一分配前ノ純益ヲ舉ケルニ至レリ)
 斯クテ全會社ハ一九二四年(天正三年)ニ六株主配當一割五分ヲ豫期シテ經營續行中ノ処歐洲ノ大戦禍ハ當年十月松村少將ヲ率テタル汝カ帝國兩遠支隊ヨリ本島ノ占領ヲ余



儀ナクセシメタリ

八占領後採鑛經營

一九一四年十月二十五日日本島採鑛經營ヲ保管事務ノ名目ノ下ニ日本國民西澤吉治ヲ代表トセル南洋經營組合ニ委ネタルモ翌年一九一五年八月十三日以テ合組合ノ事業經營ヲ中止セシメ海軍省所管トシ一九二二年三月末迄保管事務ヲ繼續シ茲ニ一九二二年八月二十一年四月一日新設南洋廳ニ移管シ現在ニ改テ天ノナリニ創業ヨリ最近ニ至リ採鑛採掘移出量ヲ概記スレバ左ノ如シ

一 獨逸經營時代

西曆	日本	精鑛移出噸數(單位噸)	合
一九〇九年	明治四十二年	九〇〇〇	九〇〇〇
一九一〇年	明治四十三年	四〇〇〇	四九〇〇
一九一一年	明治四十四年	四三〇〇	九四〇〇
一九一二年	大正元年	六〇〇〇	一五四〇〇
一九一三年	大正二年	九〇〇〇	二四四〇〇
一九一四年	大正三年	四〇九六四	二八四九六四
計			九一〇〇〇

二 南洋經營組合時代

西曆	日本	精鑛移出噸數(單位噸)	合
一九一四年	大正三年	一一〇九二	一一〇九二
一九一五年	大正四年	二六三六二	三七四五七
計			三七四五七

三 海軍經營時代

西曆	日本	精鑛移出噸數(單位噸)	合
一九一五年	大正四年	一〇三二	一〇三二
一九一六年	大正五年	六九一六	二七九四八
一九一七年	大正六年	四五〇九七	七三〇四五
一九一八年	大正七年	五三三六二	一二六四一六
一九一九年	大正八年	六九四二一	一九五八二七
一九二〇年	大正九年	七五二九八	二五一二二五
一九二一年	大正十年	五八八九六	三一〇〇二一
一九二二年	大正十一年	一八二五三	三二八二七四
計			三二八二七四

四 南洋廳移管後

西曆	日本	精鑛移出噸數(單位噸)	合
一九二三年	大正十一年	三二五〇五	三二五〇五
一九二四年	大正十二年	六〇九二一	九三、四二六
一九二五年	大正十三年	六六六九八	一六〇、一三四
一九二六年	大正十四年	六〇三三八	二二〇、四六二
一九二七年	昭和元年	六二、六四九	二八三、一一一
一九二八年	昭和二年	六四、八七三	三四七、九八四
一九二九年	昭和三年	六八、二一三	四一六、一九八
一九三〇年	昭和四年	七〇、一五八	四八六、三五五
計			三二五〇五

